

「医療・半導体関連技術特集号」に寄せて

取締役
専務執行役員

平岡和夫



住友重機械工業株式会社は既存事業の収益基盤強化とともに、4つのセグメントのコア技術をベースに重点投資領域を伸長し、新たな価値創造と企業価値向上を目指しています。具体的にはロボティクス・自動化分野、半導体分野、先端医療機器分野、環境・エネルギー分野ですが、今回の特集号では「先端医療機器分野」と「半導体分野」についての製品・技術を紹介します。

現在、世界では、心臓、脳血管障害、がんが死因のトップ3であり今後も患者が増加すると見込まれていますが、日本では2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなると言われています。一方で医療の進歩は日進月歩で早期発見によって「がんは治る病気」になりつつあります。当社では癌を発見するPET サイクロトロンとその周辺装置、発見した癌を治療する粒子線治療装置として陽子線治療装置、重粒子線治療用入射器、BNCT装置を医療機器化しています。

日本は先進国のなかで放射線治療が選択される割合がまだまだ低いのが実情ですが、今後選択機会の増加が期待されます。また粒子線治療は、ピンポイントでがんを叩くため、副作用が少なく患者に優しい治療です。早期診断とQOL(Quality Of Life)の高い治療の提供によりがんになっても健康で長生きできる社会を作ることが我々の目的です。SDGsに直結した医療機種で今後とも人と社会に貢献していきます。

半導体については今更詳細を述べるまでもなく、社会の発展に必要不可欠であり、その市場は拡大の一途をたどり、2030年までに世界の半導体市場は100兆円規模に成長すると予測されています。当社グループでは複数の事業ユニットで半導体関係の事業を展開しており、イオン注入装置、レーザアニール装置、シリコン単結晶引き上げ装置などの半導体製造装置事業、クライオポンプ、真空ロボットなどの半導体製造装置向けコンポーネント事業およびイオン照射サービス事業等を行っています。グローバル成長市場に対してSDGsやカーボンニュートラルといった社会変革に伴う顧客の要望にタイムリーに応え、社会課題の解決に貢献していきます。

本特集号では、当社における上述の取組みの一端を紹介させていただきますが、先端技術で社会に貢献する取組みに終わりはありません。今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。